

本別町地域公共交通会議 会議要旨

開催日時 平成24年1月23日(月)午前10時～10時30分

会場 本別町役場3階会議室

<出席者>

・帯広運輸支局首席運輸企画専門官	藤田 雅博
・帯広運輸支局運輸企画専門官	佐藤 彰也
・十勝支庁地域振興部地域政策課主査	仁平 寿枝
・十勝地区バス協会事務局	中木 基博
・十勝地区ハイヤー協会常務理事	塚本 俊二
・本別ハイヤー有限公司専務取締役	白木 智康
・有限会社北海陸運代表取締役	小川 哲也
・毎日交通株式会社代表取締役	千葉 元逸
・十勝地区交通運輸産業労働組合協議会事務局長	前田 英司
・本別町自治会連合会会長	三枝 金作
・本別町 高橋町長、横田建設水道課長、 川本企画振興課長、吉井保健福祉課長 (事務局)大橋補佐、小川主査、武田副主査	

<欠席者> ・十勝バス株式会社旅客事業本部長 長沢 敏彦

会議事項

1 開 会

2 挨拶(会長)

3 議 題

(1) 太陽の丘循環バス新規路線の追加とフリー降車の実施について [資料1]
近道便の新設について
フリー降車に実施について

(2) 地域内フィーダー系統確保維持計画(案)について [資料2]

4 その他

会議の経過 別紙のとおり

会議結果 (1) 内容原案のとおり了承。

(2) 内容原案のとおり了承。

別紙

【会議の経過】

1. 開会 川本企画振興課長

2. 会長挨拶

あいにくの雪で足元の悪い中、本町にお集りいただき誠にありがとうございます。

昨年9月、自家用有償旅客運送の更新申請にかかる内容について本会議において協議ご了承いただきました。

本町では、平成12年4月より市街地を循環する「太陽の丘循環バス」を運行しており、昨年度、地域公共交通活性化・総合事業による調査事業の中で、1月～2月にかけて循環バスの見直し試験運行を行ったところであります。

国土交通省においては、昨年4月より新しい事業として、地域における公共交通を支援する地域公共交通確保維持改善事業がスタートしましたが、当初、太陽の丘循環バスの運行においては、補助対象要件を満たさない状況でありました。

しかし、昨年12月の事業実施要領の一部改正により、要件が緩和され、「太陽の丘循環バス」も対象路線となる見込みとなりました。

本日は、太陽の丘循環バスの新しい路線の新設、循環バスを維持確保していくための補助申請に必要な「地域内フィーダー系統確保維持計画」について、よろしく協議願います。

3. 議題

(1) 太陽の丘循環バス新規路線の追加とフリー降車の実施について

(資料1および資料1-1、1-2により事務局より説明)

近道便の新設について

北・南回り両コースの16時台の最終便を、「近道便」として1便運行とすることで、効率的な運行と現在利用している人の移動手段の確保を図るために提案する。

乗車可能な停留所は、病院、活性化センター、本別道の駅の3か所とし、以降、利用者の降車予定により、原則、北回り南回りの順に最短ルートでの運行を行う。

よって、病院前から活性化センターを經由し本別道の駅までを定時定路線運行とし、それ以降について利用者の降車予定により、最短ルートで運行する。

運行時間については、十勝バス帯広陸別線への乗り継ぎを考慮し、病院前16:35発。

近道便の運行開始は、平成24年4月1日。

フリー降車に実施について

利用者の利便性を図るために、交通量が多い区間等を除く区間で、バス停以外でも降車可能とする「フリー降車」の実施を提案する。

路線図の中で、紫色で路線に色塗りしている箇所が国道と橋の位置であり、降車禁止区間

となる。それ以外の区間については、原則フリー降車可能な区間となるが、可能区間であっても、乗務員が危険と判断する区間については、降車禁止位置とする予定。

利用にあたっては、乗車する際に、フリー降車する場所を乗務員に知らせるようにし、降車地点で乗務員は、安全に十分配慮しながらゆっくり停車し、降者してもらうこととする。

フリー降車は全路線、全便で対象とし、実施時期については、4月1日からとする予定。

(2) 地域内フィーダー系統確保維持計画(案)について

(事務局より説明)

昨年4月よりスタートした地域公共交通確保維持改善事業は新たに運行を開始するものが対象要件あり、既存路線については、50%以上路線変更となるものについては、新規対象路線とみなされましたが、本町において大きな路線変更は、利用者への混乱を招く恐れがあることから、事業申請については見送ってきたところ。

昨年12月に要領改正あり、昨年度の調査事業において、1か月から2か月程度の試験運行を行った路線については、新たに運行を開始するものとみなすことになったことから、今回、事業申請に必要な地域フィーダー計画について提案する。

(内容は資料2により説明)

【現状における3か年の補助申請見込額】

- ・平成24年度 1,319千円
- ・平成25年度 1,300千円
- ・平成26年度 1,305千円

4. 質疑応答

前田委員) フリー降車に実施に際して、停車する際、「バスが止まります」などのバスの表示版設置などの対応は必要ないか。

事務局) 昨年の試験運行の際の警察協議においては、交通安全に留意し、道路交通法に違反する以外は、特に規定はないとの見解をいただいている。

しかしながら、ご指摘のとおり循環バスがフリー降車可能なことの住民への周知も含め、バスの表示等についても配慮が必要と考えるので、対応を検討していきたい。

前田委員) この時期になると、4時過ぎには暗くなるので、電光掲示板による他の車両へ知らせる方法など、また降車の際には十分な安全対策が必要と思うので、よろしく検討いただきたい。

事務局) 検討させていただく。

5. その他 なし

6. 閉会